WASON
HQ
1104
S74+

驛遞局認可

明治二十年二月廿六日刊行

女學雜誌

每土曜日發兌
一册正價五錢
府內無郵送稅

第五十參號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

WASON
HQ
1104
J74+

驛遞局認可

明治二十年二月廿六日刊行

女學雜誌

每土曜日發兌
一册正價五錢
府內無郵送稅

第五十參號

東京 女學雜誌社

Feb. 1887 no. 53

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 53. FEBRUARY 26TH, 1887.

第五拾參號

EDITORIAL:—Reform in Ladies' Dressing.

LEADING ARTICLE:—Mr. Shimada's Address before the "Christian Women's Temperance Union": No. II.

MISCELLANIES:—Ladies' behavior: Mr. K. Suyematz's Letter about the "Voluntary Marriage" by Senater S. Nishimura.

CRITICAL NOTICE:—Mr. Tanaka's "Bukkyo Fū Fū Ron" (Buddhistic Marriage.); Mr. Shirami's "Tōyo Hiyak-ka Bijin Den" (A Hundred Women).

BIOGRAPHIES:—Mrs. Mary Washington; Mrs. Eureka: No. VII.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社説　女服の改良

●論説　島田三郎君演説（開化に際する婦人の心得）筆記（二）

●叢話　女のたしなみ○女學漫錄（西洋禮式一斑）○末松謙澄君の來柬（女の許に通ふ人々の事）

●批評　田中智學氏著佛教夫婦論の評○白水常次郎氏編東洋百花美人傳の評

●佳傳　ワシントンの母（二）○ゆりか物語（七）

●寄書　婦女の地位に付ての質疑に答ふ（二）（上林敬二郎）○和歌（八首）

●新報　二十則　●廣告

●珊瑚の玉（第廿二回）

○古人源氏物語に於てハ其文章口をつぐめて称美せざる人なきに其中の歌は無下に拙しと云へる人多し余思ふに此物語の歌ハ又別に一躰の風ありて淡泊悠長なるを旨とし風流の氣象ありて餘情甚し殊に其歌多くは臨時當座の即詠に仕立たるものなれば斯くあるべきと也此物語の歌を他の撰集などの心もて論ぜんは類を知らずと云ふべし（北窓瑣談）

○佛蘭西の碩學ポトリユー曰く國家の文明は一に婦人の教育に關す

○ショーペンホール曰く婚姻の感化たる其及ぶ所ろ當代自他の禍福に關するのみならず亦子孫の禍福に關せり何んとなれば婚姻はこれ次世の初めなれば也

○榮啓期孔子に答へて三樂ありとす其一に云はく男女の別男尊くして女卑し吾既に男たる一樂なりと孔子云く能乎自寛すると孔子は女權論者にあらざる也

○雪の降りたるにこずたるゝも口惜ければ彼の高峯の雪はと云ひたれば何となふ打ゑみてまた立もやらずさすがに捨もをかず童などにわれかゝげ玉へよなどほのかに云ひしこそよけれいとも女はかゝるべしとぞ（花月草紙）

女學雜誌第五拾參號　明治二十年二月廿六日

● 社說

○女服の改良

服裝改良の事一二年來世上の一問題となれり論者大抵我國從來の和服を以て立居動作に不便なるものとし或ハ之を洋服に改むべしと云ひ或ハ洋服を更に改良して一種適宜の新服を工夫すべしと云ひてそれ〴〵に尤なる理由を陳べたり然るに新に一種の工夫を考ふると云ふは其聞え宜しきのみにて實際には容易く行はる可らず特に其新服に對して我邦民の好を起させんは更に困難の望なるを以て一と先づ目慣たる洋服を其儘に用ひ追て着々之が改良を行はんと云ふの說尤も勢力を得たれば今や殆んど之に對する不同意の議論を見ざるに至れり此故に上み諸官省に於ては自今可成洋服靴にて昇降すべしとの內諭行れて下は商店に見張番する丁稚小僧の輩まで今は洋服に卷烟草のかほりを床しうする有樣とはなれり

然るに此變化は主として男子の間にのみ行はれ女流の服裝に關してハ左したる議論も聞えずありしが鹿鳴館の舞踏盛んなるに連れて洋服に一轉するの議亦女流社會に躍り出で去年秋の頃よりしてハ此事に關し世上に彼此と論じ合ふものを見るに至れり然れども男服を洋風にするハ第一に經濟なり第二に便利なり但だ着慣れざる上の窮屈と日本家に膝を屈するの不愉快ハあれども若し此二事を忍ぶときハ則ちかの二つの益を得るに足るとして世人多くハ之を贊成し改良の運特の外に早く成就したりと思ハるゝに女服を洋風に變化せんと云ふの一事ハ其趣の大に之と異るものあり是れ第一に經濟上の都合必しも宜からず第二に立居動作に多く便利なりしとも思ハれず特に着慣れざる上の不都合甚だ多くして日本家に不相當なる點も乄尠からずと云へば女服を洋風にせんとするの理由實際に聞えがたき所あれバ也只だ舞踏にハ恨らく日本の女服にて行ハる可らず馬に乘らんに從來の儘にてハ不都合あり夫が洋裝して宴會に臨まんに昔ながらの緋袴ハ甚だ不恰好なり黑紋付も同行の釣合宜しからず特にハ日本女服の一弊として足元の蹴出に空氣の流通意外に容易なれバ文明人種の目にハ野蠻の遺風と見えて恥かはしき限ならんと云ふ大抵此樣なる四五の理由ありて扨てハ女流も亦均しく洋服に改むべしとの議論世に現るゝこととなりたるなり左れば貴婦人方の中よりハ夙に此改良論を實行して益す之を主張し玉ふ人々も見へ三四の女

學校及び小學校に於てハ既に其生徒をして洋服に變ハらしめたるの勢に至りたれ共此議に對する世上一汎の輿論ハ尚容易く決せず彼の男子の間に洋服論の行れたるが如き活潑の進歩も見へざりしに近頃に至り賢こくも我　皇后宮洋裝に關ハる御思食書を出させ玉ふにより迷路一途に歸して世論初めて確定したることとなり

吾人ハ固より我國の女服を以て改良すべき所多きものと認ると雖も之を世上に於て論ずる程に早く改良すべき必要あるものとハ認めざりき然れども若し今之を改良せんに其方如何んと問ふものあらバ只其一部分を改るのみにて事足りぬべしと信じ更に餘の大なる問題に對して切に女風の進歩を希望するの外餘念あらざるものあり但し世人が左程にも女服を改良したしと切望して而も可成く之を洋風になさんと云ハゞ之に對して大に異議を申すべき理由もあらず然らバとて又之を贊成すべき程の必要も見へず但だ可成く西洋に行はるゝ服裝上の弊害を去りて後ち洋服を着用することゝすべしと忠告したる迄なり然れども今既に　御思食書を拜讀してハ今後吾人の希望する所ろ此仁惠ある御思食のよく實際に行ハるゝの一事にあり特に洋服の服地にハ可成く和品を用ゆべしとある有難き御主意を承りてハ言ふも恐れあれども吾々の愚考する所又此外に出でず此上ハ我女流諸子のよく思旨を奉躰して和品の洋服を以て其禮裝とさるゝことを勸め參らするのみなり

附て玆に一言すべき者ハ諸子が洋服を裝ふと共に洋裝に有觸れたる數多の弊風を取用ひざるべし及び平常の服裝ハ從來の和服に多少の改良を施し常々洋服を用ひさるに滿足すべしと云ふの二箇條あり

抑も洋服を裝ふの女流ハ又普通の服禮を心得ざる可らず先づ斯る宴會にハ此樣の裝を正式とし此樣の式場にハ斯る躰裁を法とする由を學び置くこと大切にて例ふるに彼の諸子中一部分の人々が既に舞踏場に熱心に立入玉ふとならバ切てハ亦その服裝の法をも心得て西洋婦人の嘲を蒙らざるの覺悟あらんハ至當の事なるが如し故に此樣の事に關してハ吾人も敢て西洋普通の禮式を執用ひたく希望すること勿論なりと雖も然れども彼地上流の社會に於て既に厭惡さるゝ所の服裝上の弊害の如きに至てハ斷然之を退け決して摸倣の事などある可らずと考ふるなり一例を擧れハコーセツトを固くすること靴を狹く且つ高くすること頸衣を低くし腕を露ハすこと衛生に害ある塗物藥水等を用ゆること等の悪風ハ全く之を拒絕し尚ほ可成く質素高尚

の服制に隨ひ決てかの流行を追ふ巴里風の華美を倣ふ可からず之れ我國の女流が今ま最初に洋服を裝ふに當り多年彼地の風俗を亂したる惡弊を先ず始に防止するの務と云ふべき也然れ共當今の景狀に就て之を見に女流が洋服を裝ふハ只だ宴會正式等すべて晴らしき場合に於てのみ用ゆるとすべし日常の間にまで斷へず之を用ゆると云ふは今日の事情に於て恐くは許しがたき所多かるべし然るに晴々しき場合にのみ洋服を裝ふと云ふの一事に付ても此ハ只だ上流社會にのみ得行はるべきものにて中以下の人々にハ容易に行ハるべきにあらず況んや其日常の衣服に至りてハ今日の服制を大に改むるとあど到底爲し得がたきとあるべし故に近來女流社會に洋服を用ゆるものあるに至りたるハ之を以て日本女服の改良とハ見做す可らざるの實あり寧ろたゞ曩に裁定ありたる服制の則廢されて新に一種の禮服を加ふるに至りたりと云ふを以て至當とすべきものなり然れば其實女服改良の方未だ一決せず世上に是と云ふ程の名案も未だ出でざるものとして敢て愚考するに既に前段にも說述したるが如く當今左程に惶たゞしく女服を改良すべき理由あるを見ずと雖も若し止むなくんバ只其一部分を改めて以て當今の女服の欠點とする所を補ふの外手段あ

る可らず之を措てハ今日多事の時に於て辨論を費すべき程の價あるものを見ざるなり然らバ當今の女服に於て眞に大欠點とすべきハ如何なるとなりやと云ふに吾人の眼中にハ只但一ケ條の外あるべからずと見ゆるあり彼の舞踏乘馬に差支あり夫婦同行に恰好宜からずとして和服を嫌ふものは例へバ外人との交際に日本語を不便利なりとするに均しこれ尤も當然の事あれバ斯る人ハ何如なる洋服をも着し玉ふべし一裝に數千圓を費し一季に數對を要するの仲間に入りて倘ほ資力ありと云ハゞ之は其人の幸福あるとして何如樣にも洋服論を主張あるべしと雖も之を以て和服を全癈するの理由となさんとするハ猶ほかの日本語を不便利として我國の言葉を悉く洋語に變化せんとするが如し吾人は此樣の人に對して當今の日本に於ては差當り諸子に英和の兩語を遣ひ分け玉ふとを切望して追て英語に變化するの日を待たざる可らずと言ふが如くかの洋服熱心の女流に對しても亦暫く和洋の兩服を併用し玉へと云ふべし是れ恐乍ら皇后の宮の御思食に適ふものと存じ來る所なり然バ此一事は和服の欠點として早く改むべき所にあらず只足るが上の榮耀と見て只其一進化を希ふに過ぎざるまでなれども吾人が認めて眞正の一欠點ありとする者ハ卽ち我國の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女服の締り甚だ宜からず足元の搦け廣きに過ぎて文明人の尤も愧とする露足の弊あるの一事ありとす故に吾人が女服の改良と云ふものハ則ち先づ此一欠點を補ふに止りて其他の高大なる希望を有せざるものなり然るに此一事ハ世人も既に注目し外人の和服に賛成する人々もたゞ此一點をのみ速に改めたしと云ふの勢あれども而も之を改むるの方法に至りてハ未だ良策あるを聞かず或ハ袴を穿つべしと云ひ或ハ一種の裳を用ゆべしと云ひ或ハ靴を穿ちて靴下の長やかなるを用ゆべしと云へども何れも見榮宜しからずと思るゝに付てハ其實際に行るゝとも甚だ覺束なきが如し故に吾人の愚案として更に一回の批評を乞ひたきハ即ち下衣の裁ち方を改めて西洋婦人の着用するペッチコートの如きものを仕立て之を衣服の下に着用せバ如何んと云ふの一議にあり凡そ服裝の事はたゞ理論を以て決すべきにあらず專ら習慣と趣味との上について之を述べざれバ何如なる良案も決して行ハるべからざるが故に茲に愚案する如きものハ眞に些細の改良にして習慣を大に破るにもあらず見榮は寧しろ宜からんとも決して不快の心地あるべきにあらざれバ改良方中尤も容易に行ハるべきものあらんと信ぜり右改良下衣の事につきてハ別號に於て更に細論するの日あらん茲にハ只だ其略圖を示して以て吾人が當今に於て女服改良の問題に對する考慮甚だ重大ならざるを告ぐると爾か云ふ

● 叢話

○女のたしなみ

鴨と家鴨とは素と同性の鳥にて相似る所甚だ多し但だ鴨は野水に遊びて勝手に育てども家鴨は人の飼養をうけて漸く存するの相違あるよりアヒルの文字に家の鴨とは記るすとあり依て或學者ハ此二つの鳥の相異る所以をいろ〳〵に調べたる末見出したるは鴨の羽の骨は家鴨の羽骨よりも重く家鴨の足の骨は鴨の足骨よりも重しと云ふの一事あり此は眞に些細の事なれども之に依りて最と面白き理由を推測り得たり則ち鴨は野鳥にして自由に飛びありくものなれバ其羽翼の力固より强からざるを得ず隨て其骨も甚だ丈夫にて重量も自ら重しと云へど既に家に飼ハれて飛行すまじきものとなりたる曉にハ其羽翼を使ひ用ひざれば力も又自らに減じ隨て重量も漸く輕く

あるべし然れど其代として躰ますく肥とり肉多く身につきたれば身躰の量其割に重うなりて之を支ゆべき足の力の漸次に増加すべき譯なれば扨ては家鴨の足の骨は鴨の足骨よりも重しと云ふなり此事實に尋常の例なれども活物の時と場合とに隨ひて其身躰の摸様をいろくに變化するの理由は據て以て明知すべきなり左ればダル井ンの言葉にも田舍の牛は都の牛よりも耳が遠し風多き島國の虫には羽翼なきあり木樹に巣つくる虫は大抵其木の色合に身をやつせりと云ふと一々尤なる理由の存するを見るなり

非常の動物にてすら既に如此くなれば况して吾々人類は四面の有様によりて身躰の模様を變化すると甚だ速かなり鍛冶屋の手は文人の手よりも强く車夫の足は呉服屋の番頭の足よりも重きは勿論若し器械にて一々撿査したらんには時計屋板木屋などの目は船頭獵師などの目よりも近く歌女音樂師等の耳は職工大工などの耳よりも微を穿ちやすべし一に皆な其用ゆると否らざるとの次第によりて變化するなり然れば物に感ずると躰よりも早く事に動すると一身よりも尙ほ速かなる機の心に至りては其外面の事物に應して變化しゆくと尙更に强し道を聽て善に移り惡に染みて行を破る如きは悉く是心の外物に隨ひて變はるものなり此故に大凡そ心術を善くし品行を修め日に高尙優雅の德に進まんと欲するものは先づ其身躰を置くの地位に注意し成べく思を汚がし志を卑くするやうの事物に接すべからず古の聖人が擇んで仁に處れと申されたるは必竟此樣の義なるべし

特に温和優美の德を以て其たしなみとすべき女流社會には右一條の心得甚だ大切なり昔し希臘の婦人は立派なる子供を產まんとて妊娠中はつねぐ美麗なる像畵を觀たりと云ふと昔日の一佳話なれ共此邊の覺悟は啻に妊娠中にのみ爲すべきものにあらず平常たへず心に美麗を見思に不浄を入れずして以て其身自分を立派の人となすと甚だ緊要なり故に家内に在りて内輪の人のみ居らん時にも尙ほ禮儀を優さしくし言葉つきを鄭重にし惣べて汚らはしき事供を言行に現はさゝるは勿論決して之を耳にも目にもせざるやう心得ざれば其思を高尙にし其行を優雅にするとは得て爲すべからざる也たとひ人中に出たるとき特更に容儀をつくらひ言葉つきを優に眞似たりとも平常立派なる事物に心を對はせて斷へず其樣に身を變化し來りたらんものならずば知らず識らざる間に本性を露はして粧ひたる化皮を見破らるゝものなり依ては女流社會に禮儀を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

尊むゆゑん甚だ切にして女のたしなみとすべき事件は尤も少からぬことゝ云ふべし

之に就て西洋婦人の事を思ひ合すれば其平常の心得甚だ感服すべきもの多し其禮儀を鄭重にするの有樣に至りては殆んど吾々の目に不思儀なるやう思はるゝことも少からず別項に於て吾友人が記述する如く成程餘りに些細なる事柄にも注意して左程とは思ふ可らざる言葉ぶりをも尚ほ敬を失ふ非禮の言語と見做す趣は日本人の目に寫して少しく弊に陷りたるものと見ゆるが如くあれども更に一考すれば願くは斯る弊に陷る程の傾向に進みて事々に言葉つきを注意し惣じて女は少かの不淨の言語をも述べず況して少との非禮をも行はずかの暴くれたる男子も女流の眼前には肅然として身をつゝしむと云ふが如くあらせたきものあり」然るに當今の景況を見るに斯る女のたしなみは殆んど絶無に歸し女流の言行に於て尤も不淨不清潔の事を見聞するが如き有樣あるは甚だ歎ずべきことなり吾人は斯る見聞を爲すがまに〳〵心を刺るゝほどに不快を覺へて思に禁へざれば唯だ其折々の歎息を紙に寫して漸やく心中の凝りを散じたることあり然るに此頃思ふやうは斯る歎息の事柄も若し讀者の一覽に供して諸君と共に力を盡し此の弊害を矯むるの助ともならば女德を進むるに於て多少の効なきにもあらじとて遂に下に其儘を書き列ぬることゝはなりぬ

第一　去年吾社にてレビット夫人を聘し築地の厚生館に第一回の女學演說を催したる節來會ありたる六七百人の方々は悉くこれ女流にて而も皆な中以上の貴婦人と見受けたりレビット夫人が女の心得とすべき條々を細やかに演べ玉ふ折聽衆惣躰に最と感服して傍聽さるゝ有樣吾々の本懷茲に達して最も喜ばしき限なりしが貴婦人方は斯くも同夫人の演說には謹聽しながら尚ほ一人二人づゝチラホラと席を立ちて往來さるゝあり此は何處へ參らるゝやと手に汗して見てあれば申すも憚あることながら彼の下がゝりたる場所へとは通ひ玉ふなりアゝ是はとは思へど當人の方々は至て平氣なるのみか彼の入口の戶より再び入り來らるゝ際尚ほ手巾をもて洗ひたる手を拭ひ乍ら元の席へと反へられぬレビット夫人にして若し此事の情實を承知あられたらんには中々に演壇に立ちて帶の大小など論ぜらるゝ塲合にはあらず日本の女弊を看破さるゝこといと更に深かりしならんが後に夫とも氣付かれざりし趣に見へたるは切てもの心休めなりき因て其後吾人は此の事を一二の婦人に忠告しても左程に感じたる氣色も見へざるに彌〳〵驚き

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

只歎息の至なりしが熟ら〳〵思ふに此は素と不思議の事にもあらず我國婦人の習慣として人の家を訪ひやう〳〵に挨拶の畢りし比ろ直樣ハバカリを拜借してと申し愧らひたる樣をも爲ずかの塲所へ出入さるゝと普通となれり歐米の婦人をして之を聽かせなば何如にか喫驚すべき啻に喫驚するのみにあらず殆んど歐吐して其人を見るだも快からず思ふなるべし眞に歎れしきとならずや此一事習慣の儘に安んじなば誰も左程の非禮とは思はじ然れども是又かゝる不淨の間に心を養成して之を汚られしと悟り得ざる程に思を變化し來りたるなり故に苟くも文明の味を知らんと欲する淑女方は先づ此樣の取なしを尤も下卑たるとと悟り次に斯る弊風を全く絶つの工夫を運らさゞる可らず其工夫とは固より難きにあらず之を行ふ實に易々たるのみ(以下次號)

○女學漫錄　(三)

外國禮式一班

麻谷山人

此頃或る外國の紳士か其の令孃を伴ひて華族某侯の家を訪ひしに老夫人なるひと四方八方の物語せらるゝ序に安政年間の大地震のことを言ひ出でられ傍らに在る夫人を指し彼が尙だ此の胎内に在りし時東京に大地震ありけり云々と遠慮無き話しに彼の紳士も其の令孃も殆ど席に堪へかねたりとかや余之を聞て思へらく實に左ることもありなん男子が亞米利加の婦人の居る前にて拙者は腹痛みて堪へ難しと云ふも甚だ無禮なる由にて拙者は胃に痛みを覺え候と躰よく言ふが常式なりまた足脚など白地に言ひ出づるもいみじき失禮の語なりとて其代りに英語の「リム」(支肢)と云ふ躰よき語を用うるとぞ英國の如きは斯る六ケ敷禮儀も稍簡なる風なれど亞米利加の婦人は是しきの禮法をも事々しく推し貴ぶの習俗あり足を足と云ひ腹を腹と云ふ何の不可かあるべき足を足と云はぬが文明とあらば實に困却の至りと謂ふ可なり余は日本國に左樣なる似非禮儀の輸入するを好まざるなり然れども吾が邦の人が男女とも猥褻の談話を事として愧る色無く隱すべき事實を高聲に罵り諱むべき話をも公然に說き誇るが如きは野蠻の習俗實に愧づべきことなり殊に外國人と交際するものは最も此に注意して恥辱を取らぬやう心懸け給ふべし敢て外國の禮儀を學べと云ふにはあらねど西洋にては斯くまでに謹しむものなることを告げ知らせて平生の御心得にもと此に之を記し畢んぬ

Vice is a Monster of so frightful mien,
As, to be hated, needs but to be seen;
Get seen too oft, familiar with her face,
We first endure, then pity, then embrace.

Pope.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○批評（第十七回）

(18)　佛教夫婦論　中本一册(百廿頁)定價廿五錢 發兌所東京蠣町二丁目同盟舍

此書は田中智學氏の演說を保坂麗山氏が筆錄ありたるものなり大意佛教を改良するには從來の如く其基礎を單に幽冥界にのみ置かずして人間界に置き死人を相手にするを止めて活た人を相手にし葬式敎を廢して婚禮敎とすべしと云ふにあり故に先づ總論して次に夫婦の成立及び宗教の關係を論じ次に夫婦の倫道につき佛教と耶蘇教との相異を說き次に東洋佛教の振はざるは夫婦の成立を誤れるに基くことを辨じ最后に夫婦は佛教最上の教義なることを論定せり。云く西洋諸國の隆盛なるは主として其夫婦の組立宜きを得るによる我國若し古昔より固有の婦德を擴張し且つ支那主義の卑屈亂暴論に傳染せずば却て西洋諸國に兄たる程の開化を現ずる實に容易なりしならん然るに日本婦人の富貴なる身代は亂世で離散し支那主義でオチブレ山だしの佛教で十万億土の貸座敷へ身を賣りたり然し之は佛教の誤にて其本義にあらず之よりは佛祖の敎意を奉躰し其管轄所たるお寺のお住持さんに請ふて結婚を証明して貰ひ謹んで佛祖の寶前に於て三々九度の盞に御法の恩を謝するとすべし但し佛教に於ては女人を斥け之を夜叉の如く見做すものと認るは未だ本義を知らざる也必竟釋尊が婦人を排却したるは只一時の方便にて男子の痴慾を禁ぜしめんとしたる手立なり殊に妻帶を不可とするは僧徒の身分にのみ就て云ひ一汎の信徒に要する戒にあらざれども信徒等も尙ほ僧の行爲に似んことを高しとして遂に女に近くを以て卑しきことと思ふやうになれり然れども是は甚だ宜しからぬことにて向後專ら佛祖の敎意を奉躰せざる可らず佛祖晩年に至り立敎を大成するの運に至り女人成佛の誠敎あり喬曇彌、耶輸陀羅、はすべて授記作佛の光榮をうけ普賢菩薩は法華書寫の功德によりて八万四千の天女に侍さるゝ身分となることと定りたり是れ眞正の佛敎なり故に日蓮上人が釋迦尊法華經の主義に則りて女權伸張の議論を爲されたるは實に目覺しき程にてその賴基に送りたる狀中に

たゞ女房と酒うちのみて南無妙法蓮華經と唱へ給へ

とある程なり故に佛敎之より死人敎となるを止めて婚禮敎となり以て活たる人間を相手にすべしとこれ全卷の骨子なり

嗚呼當今の女權論は哲學者をも之に招き博物學者をも之に招き儒者をも之に召出し遂に斷淫練行たゞ石塔と死人とに交際したる僧侶をも誘ひ出したり東洋に於て女權防害の主長とあ

りたる佛教にして若し此書の論ずるが如くに改り得べしとあらバ吾人は之が爲に佛教全躰の衰微すると佛教本義の矛盾すると僧侶をして神聖にあらせたる最後の方便の消滅し去るとを悲しまず但だ女權妨害の一物玆に除かれたるを賀して幽冥界に一知友を復活せしめたるを喜ぶべし

(19) 東洋百花美人傳　中本一册(二百十八頁)定價五拾錢　發兌所東京三十間堀一丁目九春堂

此書は白水常次郎氏が我國古今の女流一百人の傳紀を諸書中より抄出ありたるものなり近著の中にて如此く數多の婦女子の傳を集めたるものあけれバ讀者が之によりて便を受ると少からず編者の勞も亦多かりしとあらんが此の百花壇中に入るもの多くは風流下賤の人々にして女教の鑑とあすべきは正成の室、忠興の妻、政子、松下禪尼の類十數人に過ぎず其餘は桂川に沒して浮名を流し住家に火つけて情慾を燃やしたるお半お七を初めとして傳兵衞に伴ふお俊才三に連そうお駒より何代目の高尾何々樓の小紫あんど云ふ惣じて女界に安座なすまじき人々のみあり然れば此類の女と共に一卷の中に納めたる清潔の女流少きは反つて淸きを汚がさゞるの幸ありと雖も若し又只だ此類の陰物を集めんにも切ては大磯の虎、宗盛の妾湯谷、白拍子微妙、江口の白妙、あんど云ふ身卑くとも志の高かりける人々を多く撰りたらバと思ハるゝに此樣の人の絶へて皆あ見へざるは遺憾の事あり

○末松謙澄君よりの書簡

妻の家に通ふ人々の事

本誌第五十號に揭げたる西村茂樹君の男女相擇ぶ說第一を見て末松君より左の書狀を寄せられぬ

(上畧)女學雜誌第五十號男女相擇之說の中に古は婦を父母の家に置き男子の方より其家に通ひたる者の如し然れども是れ獨り民間の事に止り朝廷の縉紳官吏ハ皆婦を其家に娶り婚姻の禮式も相應に整備せるものと見へたりと相見へ候處源氏物語に據れバ光源氏は正しく皇子にして其正妻ハ大臣の女なれども源氏の方より通ひたる者の如くぞ見ゆ左すれバ婦を其父母の家に置きしハ必らずしも民間の事に限らざりしもの歟と存候高說如何偶然氣付候に付煩高聽候也

巖本樣　(二月廿三日)　靑萍生

右件に對しては西村氏に定めて高說のあるべきあれども余も又靑萍君同樣の疑なきを得す枕雙紙に甚しうまたてゝ婿とりたる又は催馬樂に婿の大君きませ云々あどある或は業平朝臣が紀の有常の女に往きしと云ふ例あど皆あ女の方へ男の通ひ

たるなり左れバ凡そ物語書に女の家に往くと云へるは夫となりて妻の家に通ふと云ふと覺ゆるが此事は獨り民間にのみ限らざる如しすでに年々隨筆には

上古は百官の家おの〳〵其本居に住なし宮づかへせしものなり女はその本居にすみけれバ相娶るも男のさとより女のさとまでよな〳〵かよいたりしものあり……平城の京より百官の第宅大方は帝都にあるとあればいづれの家も程近し近けれバ自ら行かよひなどするともありて稍や親し親しけれバやう〳〵に相娶らぬやうになりしと見ゆ

と明らかに記しある如し

●論説

○嶋田三郎君演説（開化に際する婦人の心得）筆記（二）

然るに今の敎のみならず万事總て單に不可ありとして之を棄るとハ假令出來るにした所が德義に背きたるとハ無論出來あいのであります。譬へバ洋服ハ運動の便利もよし又衛生上にも良き者とある又羅紗を用うると木綿を用うると何れか良きやと問ハゞ無論羅紗を採りませう、去りながら今の時に方て悉く木綿を棄て羅紗を採るとすれバ其變動ハ如何であるか社會上餘程の影響を及ぼす事と考る。去るを今外部より一層劇しき內部を變化せしめたならバ如何でありませうか隨分困難である。此困難の位地に我々ハ立て居るのです。新なる社會に生活し新なる親族の關係を起したい抔と思ふ人或ハ之を實行せんとする人抔ハ皆此困難の位置に立て居るので此地位に居ながら其道を爲し遂んとするハ隨分六ヶ敷事と思ひます。然らバ先づ第一に目的を立て高く目を着なければならぬ、併し之を俄に改め急に其思ふ通りにせんとすれバ世人ハ此人を指して輕躁の人なり大任を引受くる器量なき者なりと擯斥さるゝに相違ない。然れバ如何なる困難をも忍び辛苦をも堪へて事を理めなければならぬ。斯の如くにして知ず識らずの間に世人をして己の考の下に引付る樣にするが第一の必要であります。

今の女子敎育の進歩を計る者にして急劇に其目的を達せんとするハ殆んど逆卷く潮の下に立つ如きです、其通りよあれバ若き人には幸か知らぬが年老たる人々にハ不幸なる明治世界と謂ハなければならぬ。故に其任に當らんとする者ハ只未來を期するばかりです、然らざれバ其激浪ハ一層甚だしく前に逃たる衣服の比にあらずして餘程の變動を社會に與へ且つ反

對の勢力を强からしむるに過ぎまいと考ふるのです。
是より衣服に就て私の考へをお斷致しますが何しても此末日本人の生活は西洋風の生活になると思ふ、今之を學校の一分に徴しても知り得らるゝのです。凡世の中の事と云ふ者は半分以上は學校の習慣より起るものですが、昔の學校抔の勢力は誠に薄く疊の上で墨を磨る位でありましたが、今日は大層に其趣きを異にして男女學校の必要あるとは世人の認めしのみならず政府も規則を頒布して子を敎ゆるは親の義務ぞと云ふ有樣になり悉く歐羅巴流儀の敎育世界となつて來ましたから自然洋服の必要を感ずる場合となりました
既に男子が歐羅巴風になつて女子は依然と舊來の風を守ると云事はない、十年前に比すれば今日は餘程洋服を着者が多くありました。先づ警察署區役所郡役所を始めとして靴の外昇降を許さずとなり、學校も亦其通りになり、商賈の店も次第に西洋風になれば、之に出入する者は其便否を大層に感ずる事となる。然るを男のみ其便を受けて女は其便を受けぬと云ふ筈はないから、必ず女子に其變動を與るに相違ありません。此變動を受けても益はあるが害はないとの點より見ても、西洋風になるは知るべきです。
昔の時代では日本程大なる國はなき如く思て居ましたが、今日では少しく地理學でも學びたる者は其日本の少さく豆粒程もなきを知りたるでありませう。何故日本人が今迄に斯かる風俗をなし斯る風俗と爲りたるかと本を推して考れば、彼の一葦帶水の支那國に化せられたと思ふ。支那は日本より開化の度が進み居し故文字を書く事も文章抔も支那風を尊びました。是を何故と問ひますれば支那は我國より土地も廣し人口も多き故自然彼れに變化せられたのです。今此支那を西大陸に比すれば如何でありませう其の進歩は甚だ遲いではありませんか然るに我國か一歩を進め漸々文明に赴くものとし男子のみ文明の支配を受け女子は依然として支那の風俗に安んじては甚だ不都合ではありませんか。男は既に文明の支配を受れば女も亦之に從ふは自然の事です、若し男のみ文明の風俗が染込で一方の女子に染込まずとすれば日本國は奇怪なる結果を生ずるで有うと思ふ。夫婦の間に出來た子を敎るに當て父親の慣習と母親の慣習と反對と云ふ樣な事があれば其子たる者は如何なる敎育を受くるでありしようか不都合千萬と云なければならぬ。否斯の如き事は無いのです男子が西洋風になれば從て女子も其樣に感染すべき者であります（未完）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●佳傳

○ワシントンの母（二）

斯る内にもフレデリックスバーグの人民どもは大將を奉迎すべき用意一と方ならず翌日はいよ〳〵之を迎へて盛んなる宴會を催さんとて母堂もろとも臨席ありたきやうワシントンに申來る千軍万馬の間に於てワシントンの武勇仁惠に服從したる人々は固より外國より加勢にとて渡り來りたる將軍兵卒どもは皆な大將の母君とて賢名いと高かるに面りせんとは待受たり凡そ獨立の軍を率ひて遂に强英を挫しぎたる英雄の母なれバ定めし堂々としてあたりを拂ふ有様や座れすらんと思ひ計りたるが既に其日となれバ母はワシントンの手に寄りて徐々と歩み來る其衣服は淡泊にして最と鄙びたり盖し昔し田舎女の手を以て造りたる品なるべし容姿は沈愼にして自ら力あれど言葉つき甚だ謙だり絕へて尊大の氣風を見ず恭しく祝賀する數多の人々に又最とつゝしみて答禮し毫も身を高うするの様あらざりき斯て宴もやゝ酣なる前に既に館を退きて老人は少年の御遊びに妨ならんと心掛たり當日來會せる此地の人々は言を要せず彼の外國より渡り來りたる將軍どもは此様を見て米國人の母既に此の如くならバ其子たる者の卓越なるは眞に當然なりとて大に歎じたりとなん

佛國の義士ラーフエッテ既に本國に歸らんとして別をワシントンの母に告げたく思ひ獨り其居を訪ひたるが早や其家近うなりて彼の人の孫兒に出であひぬ之に誘れて門の邊に來れば、將軍かしこに祖母は座れす、と云ふ偶と之を見れば手つくりの衣服を装ひて頭に淡泊なる麥藁の帽を戴き園中を逍遥さるゝ景色なり嗚呼これ米國大統領の母君なりと感歎してたゝずめば夫と悟りて近づき乍ら將軍よくぞ此老婦人を訪ひ玉ひぬイザ茅屋に案内し參らせん衣服をかゆるの禮を略させ玉へと申すラーフエッテいよ〳〵感じ入り談話ワシントンの事にうつりて連りに之を賞賛したるが母はいと靜かなる面色にて「ゼウヂが斯る事業を成就いたしたるは不思議とも存じ侍らず彼兒は幼きより甚だ善良の子供にて候ひきなれバ」と答へられける

ワシントン薨去の後多くも立たずマーリー夫人八十七才を期として永眠ありぬ之をフレデリックスバーグに葬りたるが久しう碑石もなく其儘となりけり然れど千八百三十三年五月七日に至り時の大統領アンドレウジヤクソンは夫人の功勳莫大なるを念て碑石を建面にワシントンの母マーリーとは題した

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り此日諸州の人民ども群り來りて其式を觀たる中にてジャクソンは夫人の爲に有名なる紀念追慕の演述を催したり

○ゆりか物語　（七）

○慶應の末年身を脱して外國船に乘込み千百の艱苦を嘗め盡したる後漸く米國に着し某商の信用を得て學業を專攻し終に政學士の學位を領して近頃歸朝ありたる澤邊温太君は毫も仕官の念なく專ら著作演説に從事さるゝよし

ゆりや澤邊がまだ生て居るソウ、而して米國に行つて居て今度歸つたと書いてある。ヘエー。此れを御覧、と新聞紙を差出しながら尙ほ餘文あるに心付て讀下せバ

同君が渡航未だ自由ならざるの時に當て早く既に外國船に乘込んとしたる一事は以て其艱苦の狀を推察せしむるに足る數日前知友等が相會して君が歸朝を祝したるの宴會に於て君そゞろに昔日を追懐して慷歎し一場の演説を催されたるが其中に航海中の困苦渡米後の究厄を談ぜらるゝ折は聽く者皆な膚に粟の生ずるを覺へたり盖し知友中君が函館に孤舟を雇ふて密かに外國船に乘入らんとしたる計畫を承知したるものあれども其舟不幸にして暴風に遭ひ一轉果敢なくも水中の藻屑となりたる由を聽き居りたるとあるに

ゆりかは身を震ハして泥舟にひしと寄りそひ色青ざめて一直線に新聞紙面を見つめたり

幸にして北國通ひの或和船に救ひ上げられたれども衰弱尙ほ治らざる間に暴風彌よ烈しく此和船も又楫を折り檣を斷ちて漂流し乘組の者皆只だ死を待ちて顚倒苦腦するの際暗夜偶然通行の外國船に衝突して船覆沒し人悉く水中に溺れたるが君と他一人は幸にして此外國船に救ひ上げられたり

ゆりかはホット息して其儘首を垂れ又見向もせず泥舟は新聞紙を持たるまゝ椅子に腰打かけてゆりかを眺め乍ら暫く無言あり稍やありて泥舟長歎し

（數ふれば既や七八年……長崎に居て先師と母堂の永逝後……偶然の緣によりて共に一家を作りたるが……ゆりは思ふまゝの平和を得玉ハず數年を不快に送り來れる今日となりて……我敬愛する温太が生存してあらんと）……イカニゆりイカゞ思ひ玉ふや

ゆりかは青ざめたる顔色に決心の模樣を現し靜かに顔をあげて眞直ぐに泥舟に對ひ乍ら

眞に喜ばしう存じまする父の敎を受けました書生が若し遺志を果して呉ますれば何よりもの幸で御座りませう……あな

たも御承知の如く妾は彼人と兄妹の約束もいたし父の遺命に末かけて結緣の交を爲とも只兩人の心まかせぞと許しましたれバ彼人に對する妾の愛は少からぬわけ之はあなたにお秘し申すべきとにてありませねど夫が爲め此の多年の御いつくしみに報ひ奉りもせず始終御不快に思はせましたるは何如斗りの罪ぞと恐ろしう存じまする。優坊があなたをお慕ひ申す有樣を見て我身はなどて箇程の誠あらざるにやと口惜しく日に〳〵身を省みて參りますれバ今日此頃は昔しよりも少さかはあなたを御慰め申し得る程となりました所……溫さんの恙なうお出でのは眞に喜バしひとながら是と云ふともありませぬドゥヅ妾をして彌よあなたを御慰め得べきやうこの弱き心を導きて玉はれドゥヅ誠少き此身をも今少しの間だ御忍びありて切て御心に適ふの日まで妾の愛を引出して玉はれ

もろともに西洋の志想に養はれたる身は相信ずるとも亦渥く相助けて節を守らんとする志も亦た尋常ならず。されバ泥舟はゆりかの心中を察しやりてあはれ彌や增し連に默頭きて聽き居たるが優郞は別間より走り來りて何の用捨もなく

父さんお客さまが、お母さまを尋ねて居らつした

續きて下女は手に名刺を持ち乍ら入り來り腰を屈めて此御人が奧さまに御面會なされたいとてお出でになりましたか如何いたしませうやと伺ふゆりかは名刺を手に取りて一見し愕然として

あなた溫さんで御座います

エ、澤邊か、此方にお通し申せ、然しゆりや私は今日遇ひますまい、お前一人で先づお會ひなさい。之は昔し長崎に在りける比ろ種々の事情ありて相分れたる友義上の故障あるゆへと知られたりされどゆりかは何となく安んぜず

ナゼで御座いますか何卒一所に御會ひなされて

然し今日はまづお前一人の方が宜しからう三やお通し申せと言ひ乍ら。ゆり私はお前を尤も深く信ずるものである、と言葉遺し其儘別室へ退き入りぬ

A cross of waves—away and far,
My spirit turns to thee;
I love thee as Men love a star,
Sadly and Silently;
The brightest where a thousand be,
With love unstained by hopes or fears,
Too deep for words, too pure for tears!

J. K. Hervey.

●寄書

○婦女の地位に付ての質疑に答ふ（其二）

法律が有夫の婦を以て無能力者となし契約を結ふの權利なきものとしたるも亦た社交上の必要ありて然るものなり或る學者は石丸孃がなされたる第二の理由の如く夫の權利は妻を無能力となすの原因なりと主張せり此理由は佛蘭西民法の解釋者が最も主張する所にして稍々有力の理由なれとも生は石丸孃と同じく此說には左袒致し難し其理由は石丸孃の駁せられたる如く夫に權利ありとて妻の能力を奪ふの理なければなり且又單に佛蘭西民法の解釋論としても此理由を以ては解くとを得さるものあり如何となれは若し此說によるときは夫かたとひ幼年（幼年とは二十一年以下の者を云ふ）なるも矢張り夫は夫として夫の權利を有するものなれは妻は尙ほ夫の許しを待て契約を結ふへき等なるに民法第二百二十四條によれは此ときは裁判所の許を受くへきものとなせはなりさすれは夫の權利か妻を無能力となすにあらさるを知るへし

然らは如何なる社交上の必要ありて妻を無能力となしたりやといふか夫れ婚姻なるものは相互の救護を目的とする男女の組合（Société）なり然らは則ち其組合の利益を調理する爲めには主宰者を設けて萬事其主宰者の爲す所に委任せさるへからす若し然らすして組合員即ち夫妻の各か自分勝手に動作きて思ひ思ひになすときは遂には相互の間に利益の牴觸を生して組合の安全永續は甚た六ヶ敷きとならん此事は一社會若しくは一會社に於けると其趣を同ふす若し社會に主權者なくんは如何ぞ安全なるを得ん會社に社長なくんは何を以てか能く維持するを得んや夫妻の間に主宰者の必要なる疑を容れす斯くの如く主宰者を必要なりとしてさて第二に起る所の問題は何人を以て其主宰者となすへきやといふに在り主宰者は組合間（即ち夫婦間及親族相互の間）の利益を調理し相互の救護を圓滑ならしむるの職分を負ふものなれは其職分に當るへき者は十分世故に熟練せるものならさるへからす夫妻組合間に於て其之に當るに適する者は夫に若かさるなり是を以て法律は夫に與ふるに主宰權を以てしたり既に夫か主宰者たるの地位に在るものならは妻は其主宰權に屈服せさるを得す是卽ち妻を以て無能力者となしたる所以にしてまた生か社交上の必要ありと云ふ所以なり

或は非難して言はん「成程夫婦間には主宰者は必要なりといへとも之を夫にのみ與へて妻は每に必らす夫に屈服せさるを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

得すとハ不當なり如何となれハ古昔ハイザ知らず今日に在りてハ婦人の智識も大に開け夫に勝る萬々なるものあり又婦女ハ總て思想の綿密なるもの故夫よりハ却て取引約束事にハ能く利害を鑑別するものあり然るに斯かる女丈夫と雖とも主宰者たるの地位を得る能ハずして夫に從ハざるを得されバなりと此説一理なきに在らずと雖とも頗る極端に奔るものといハざるべからず將來ハイザ知らず今日迄の有樣に徵し又現在の情況を以て見れば斯の如き女丈夫世に少なからず又蠢愚なる男子頗る多しとハいへ之を概論せバ先づ勇壯活潑にして學問經驗に富むものハ男子の方に多しといハざるべからず法律は社會一般に通ずる規則なれば其多きに從て規定するは蓋し止を得ざる次第なり故に法律の眼より見て一般に男子ハ勇壯活潑にして學問經驗に富めりとして之を主宰者となせしなり故に若し今後一般に婦女の智識進歩して男子を凌駕するに至らは法律は婦女を以て主宰者となし男子を無能力となすことならん兎に角今日に在りては女丈夫は社會統計の上より見れバ少きことなれハ法律が主宰者たるを認めさるも亦致方なき次第なり

以上論じ來りて覺へず數千言の多きを費やしたるも之を要するに有夫の婦を無能力となしたる所以は夫の有する主宰權に服せざるべからさる必要あるに基きたるものなりとす以て石丸孃の疑を解きたりと信ずれとも果して其疑團を氷解せられしや否やを知らず若尚ほ疑義の存するあらハ請ふ駁論を辱ふせよ生の知らん限りは敢て答辨の勞を辭せざるなり

○和歌九首　大和三輪村　今西民子

張良
こがらしの風ならでふく笛の音に秋の木の葉は散り亂れけり

武藏坊辨慶
安からぬ安宅の關路越にしは手に菅杖のちからならまし

古戰場
武士のおもいの殘るしの原にあやしくもゆる夜半のきつね火

雪折竹
武士のゆみに矢になる力すらとりひしがれしゆきおれのたけ

廢庵
さゝがにのすがく軒ばのふるすだれ破れて月の宿となりけり

浦の五月雨
わかめかるわかの浦邊の五月雨に海士の黒髮ほしやわぶらん

夏川
川もりの子らが心になつの來てつりの糸まにみづあそびせり

閑居秋風
夕顏の花もひさごとなりそめてむぐらのかどにあき風ぞふく

常盤御前みたりの子を携へて雪の中に立てる
白雪に身をふりかへて消のこりこのめも春にあれんとすらん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●新報

○帝國大學英語會　に於て英語討論ありたる大意の續は如左

林權助氏は積極主論者の助手として次起立し本論者に數言の加勢仕らんとありて先づ述らるゝやうは、吾等双方の論辨ともに瑣々たる歐米婦人の風習を述るを止めて社會に對する彼我婦人の地位の大に相違する所を認め以て大躰の上より觀察せざる可らず然らざらんには到底議論の決着を見ること能はじ又歐米に於て男子が婦人を優待するは決して男子の憐愍に出るにあらざることを知らざる可らず凡そ社會茲に進歩すれば必らず此尊敬を必要すること例へば文明諸國の憲法は其君主に獨裁の權を與へざるが如し苟くも世運開化せば輿論男子の氣儘を制して遂に彼の如き優待を行はせしむべし是れ必然の勢にして社會の景狀之を要するものと云ふべし然れば我日本國に於ける之と同樣の景狀は亦た之と同樣なる義務を男子の上に科すること甚だ明白なり而るに此樣の景狀の我國に生出せんとは吾人ともに希望する所にして若し然らざらんには日本の進歩も遂に中止するに至らんことを恐るゝなりとありて偖て申さるゝは、余が此議題に對するの意見は分ちて二條とすべし一は哲學上の理論により

て之を辨じ二は當今文明の傾向によりて之を論ずるなり先づ第一哲學の上よりして之を觀察するに凡そ人爲の方法を以て婦人の位置を低うしたゞ一偏の發達のみを勉むるは甚だ宜からぬ事なりと信ぜり見るべし埃及と云ひ希臘と云ひ羅馬と云ひ古代の開化の大抵流星の如く失せ去りたるは何の故なる乎一に高等生物の存在に必要なる彼の和合なるもののあらざりしが故にあらずや之と均しく我國の男子は諸種の方向に對つて文明の進路を進たりと雖も女流は依然として封建世代の位置を保つべき者と定り尤も悲むべき事情の中に遺存す可ものとなされぬ故に勢ひ無智の人となりて社會の生活に適せず以て日本社會の暗愚を來たるなり此故に凡そ一偏の發達は全躰の進歩に非るを悟り我國の姉妹の位置を改良するは決して奇を好むの處置に非ず實は尤も切要の事件なるを知べし。且や世界人民彌よ親交し言行の自由益す擴張するは近代開化の方向にして吾等の共に勉て收得せざる可らざるものなり故に此進路に對して故障となる者は成べく之を刊除せざる可らず而て我國は文明國の仲間と爲んことを望み其勇盛んにして希望徒ならざるが如きに際して茲に一の顧慮すべきものは我國姉妹の現狀は果して

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

此の希望を損せざるや否やの義あり思ふに日本女流の位置歐米婦人と同等たらざる限りは我國と歐米諸國との親密なる交際は得て望むべからじ又日本女流の位置男子の爲に負はされたる軛の下に沈まん限りは吾等の姉妹の言行の自由固より望む可らず隨つて此心躰品德の改良も亦遂に望むべからざるべし

此故に反對論者もし封建舊制の腐敗したる遺物を墨守するの人にあらざる以上は又もし古代埃及の木乃伊の靈に魅入られたるにあらざる以上は必ずや吾黨と同樣の意見を有すべき也」と反駁されぬ

最後にいたり戸澤鼎氏は消極論者の助手として起立あり論辨さるゝ樣、曰く國會曰く國憲曰く演劇改良曰く女子教育曰く畝比艦曰く長崎騷動以上皆な當今普通の時論あり然るに此中最も切要なるは日本婦女子の地位に關する問題なるべし只今大男の紳士林權助君は日本當今の婦人尙甚だ憫むべき由を仰されて歐米に於ける姉妹と同樣の特權を之に附與すべしと論ぜらる日本貴婦人の爲に女權擴張の十字軍を起し斯る雄辨を以て軍を出さんとし玉ふ此の第二世ピーターセヘルメットは惜ひ哉ジヨルサレムに進行するの力を有し玉はず君が第一の十字軍既に利なきが故に日本婦人の聖地を快復せんとには引續きて尙屢ば軍を起し玉はざる可らず然らざればヘレスポンを橫ぎりて小亞細亞に進行せんとする君が軍前に尙ほ數百万の回々敎徒あるを奈何せんや。君は日本貴婦人の位置の甚だ低きことを證せんとして一向に歐洲婦人の眞の性質を吟味せず抑も歐洲に存する女權の若干は固より當然の理由ありて存するものと雖も更に其一方を察すれば之に隣りて多くの不可ある點あるを見るへし但し余は歐洲婦人の風習中尤も法外なりと思はるゝ如きものをも玆に擧示せんとするにあらず亦年四十五十にして驕然ミス某と稱する所云る靑靴足袋の連中（昔しジヨンソンの會合に集りたる女學者供を呼びたる異名にて惣じて學者風する女流を稱するの語）に就て彼此と云ふにもあらず又家に泣涕して半ば餓ゆる子供等を遺し或は蹈舞會に或は宴會に或は諸種の公會に出席さるゝ婦人達を批評せんとするにあらず但だ歐洲近代の傾向として婦女に男子と同樣なる或は寧ろ遙に優りたる所の權力を與へんとするかの尤も許すべからざる惡風に對して一言せざる可らず彼コルチイン、アグリッパが千五百〇九年に於て女性優等論を著したる、マ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て東區平野町二丁目五十一番地に設立する大阪婦人學習會なるものハ我國婦女の宿弊を矯め人の母たるに耻ざるの教育を授る目的にて近日より開會する筈なり

○裁縫專門學校　宮城縣宮城郡實澤にては今度大内坂下高橋伊藤赤間菊地の諸氏發企となり私立裁縫專門學校を設けんと同志者百五十余名にて其筋へ出願する趣きなり

○青森婦人會　此度鍋嶋縣知事の令閨を始め外十數名の婦人には發起となりて青森婦人會なる者を創立し昨今同意の婦人を募集中なり尤も同會の目的は時々集會を催して互ひに智識を交換さるヽと、兼て有識の人を聘し衞生の事、小兒の教方及ひ家事向のことなどを質問し專ら德を修め智を研くに在る由（二月四日秋田日々新聞）

○婦人懇親會　ハ愈本日公園内なる偕樂館に於て開かるヽ由其目的とする處ハ婦人の風俗改良にあれバ本日ハ師範學校の教員なる久田督氏、奥田教信氏と外一氏を聘し女子教育に係る講談あり餘興には洋樂器を以て今様を合奏し後ち幹事を撰擧し餘ハ隨意談話さるヽよし尤も該會ハ以後毎月一回宛開かるヽと云ふと二月十一日の新潟新聞に見ゆ

○養蠶傳習場　丹波何鹿郡綾部にてハ本年より養蠶傳習場を設置するに決し目下蠶糸業組合事務所にて傳習生募集中なり

○産婆の統計　高知縣にて産婆營業の者は高知市街に十五人土佐郡に廿七人、安藝郡廿五人、香美郡六十七人、長岡郡三十七人、吾川郡四十七人、高岡郡三十七人、幡多郡四十八人、計三百三人ありと云ふ

○四日市女工場建築　川田警察署長は過日同港南町北町の花街取締人を招き藝娼妓の爲め女紅場を設置する事を切論せしにいよ〳〵北町に新築する事に決せし由に聞く

○女學會　今度佛教者の發起にて女學會といふを創立せらるヽよし右は日本婦人の學德を奬勵せんとの目的にて婦人の演説講義等を開きその景況等に講義演説筆記ハ勿論婦人の技術に係る裁縫茶湯挿花禮式踏舞その他婦人の龜鑑となるべき事跡傳記を集録したる雜誌を發行し外教師の婦人教育と競爭せんとの企立ありと云ふ日蓮宗眞宗に女學校設立の目論見あり今この企あり何れも目下教家施教の良方便と云ふべし云々と本月二十日の明教新誌に見ゆ

○三池婦人協會　筑後三池郡中に今度三池婦人協會なる會を起し婦人の智識を開發し漸次地位を高尚に化せしめ陋習を洗滌せんとの目的にて小林秀知、鹿田正規、等の諸氏發起者の由

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

船越鼎太郎君著

産婦小兒 攝生法（新著）

一冊十八錢郵送税四錢

右は産婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き様認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を鑑み専ら當今の養生法其道を盡さゞるとを敎へたり故に月經の心得より、姙娠したるか否やを知ると、出産の期日を知る法、姙娠中の養生法、産後の養生法、赤子のとりあつかひ、乳を飲まする間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等ことごとく信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのとなからんを希ふ

（出版兼發賣） 新橋日吉町八番地 女學雜誌社

基督教新聞

第百八十七號 毎水曜日發行 一冊三錢郵税一錢

衆人を敬ふべし○教報○米國與論會社歴史概略、其他二十件○天啓論、完全論○オルリッヂ、ズヰングリーの傳○一大女學校の設立を望む○女傑エリザベスフライの略傳○講壇の二十不可○雜報○英文教報○

東京京橋區瀧山町六番地 警醒社

文部省御檢定濟小學教科書

小學 國民讀本 山中英二郎編 自壹至六 七八卷近刻

東京日本橋區馬喰町二丁目 石川教育書房

千葉縣千葉本町一丁目 石川代理店

福島縣福島南裏一丁目 石川支店

農業雜誌

二百五十六號 毎月五の日發兌 一冊五錢郵税一錢

花椰菜及ブロッコリの說○北海道の說○雜報○寄書七件○問答九件○北海道錄事○農家稻作俚諺○考へもの

東京麻布本村町二百十七番地 學農社雜誌局

正六位矢野義徹先生閲 富松郁三朗先生著

○通俗飲酒効害論

全一冊平名假文 正價拾六錢郵税四錢

本書ハ日本酒西洋酒等四拾餘種ニ就テ各其効害ヲ簡明ニ論シタル養生書ニシテ飲酒家及節酒禁酒會員ハ勿論諸人必讀ノ書也

發兌書林 東京馬喰町二丁目 島村利助 仝日本橋通三丁目 丸屋善七

無謝儀詩文歌添削

但返稿郵税丈は御送附有之度候

日々多少に關らず謝儀御送被下候分は特別丁寧精密に添削可致御名作は悉く本社發行の弘城新誌に掲載可仕候也

陸奥弘前代官町七拾壹番地 弘城唫社

教育書專賣所廣告

英國バーデン大學論理學博士アレキサンダーベイン氏著 松島剛 田中登作 佐藤龜世 橋本武 合譯

心理全書

定價一冊七十五錢宛 四冊

高等師範學校教頭高嶺秀夫君序 山縣悌三郎閲

蘇格蘭グラスゴウ師範學校長ゼイムスライチユ著

七大教育家列傳

定價一圓五十錢 全

田中登作閲 普及舍編述

教育心理論理術語詳解

定價六十錢 全

文學士井上圓了著

倫理通論

第一冊 定價七十錢

大學教授寺尾壽序 音樂取調掛助教鳥居忱譯

哲學一斑

定價一冊三十五錢二冊以下近刻

發兌 東京下谷區練塀町十四番地 普及舍

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

米國ケレー氏著〇巖本善治君譯

女之未來

定價 三十錢 （新版）

近頃婦人論盛んなるに付ては女は未來何如やうに成行べきや甚だ掛念すべきとあり由て此書は廣く各國の事情を探り未開時代の女の有樣より漸く文明諸國の現狀に移りて遂に今後女の位置何如に進歩すべきやを判斷せしものなり

東京神田雉子町 **輿論社** （大取次） 女學雜誌社

石井南橋先生 土井光華先生 三木愛花先生
各家題詩 笑世居士序 風月散人輯錄

東洋百華美人傳

百美人肖像入總クロース極美
西洋綴二百六十四ページ全一冊定價五十錢郵税半額十錢

始に美人才女勇婦の古今に名高き者の奇行異聞を集め次に高尾薄雲勝山奧州等の名妓數十人の實傳逸事を集め終りに東西兩京及大坂の藝妓遊女等今日に名高き者の傳記評判を集め更に毒婦の名高き者と淨瑠璃に殘りたるお七お駒お半かの如き者の實傳數十人を掲げ一々考證を正し其間に詩歌文章の優美なると古圖寫眞に依て精密に畫きたる百美人の肖像を加へ一び卷を開けば忽春風起り忽秋雨悲み愛す可く憐むべく怒る可く悲む可く又以て婦女の龜鑑と爲り訓戒と爲り唯風流才子の淸賞のみならず實に淑女諸君必讀の書なり

二月

東京三十間堀一丁目 **九春堂謹白**

田中智學先生演説 保坂麗山君編錄

●佛教夫婦論

附錄共 全一冊

定價廿五錢 郵税半額廿五錢

右は田中先生の演説を筆記せし佛教社會三國未曾有の新説にして一たび之を諦めば佛教の極意を得て彼耶穌教の妄を看破し佛徒向來の方向を指的せると最も精妙と云ふべし且此の説に對し贊成攻撃の寄評は附錄により猶各宗の衆僧に此説の可否を問ひ進で舊妄を一變せんとす

東京日本橋區濱町二丁目十一番地 **同盟舍**

發兌

二月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
三月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
四月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	

定價

一册。五錢 郵税。一錢 （但府內無郵税）
十册。四十八錢郵税。十錢 （同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

一行一回（廿七字詰）前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂〇東京芝西久保櫻川町萬春堂〇同日本橋區新肴町東海堂〇同本郷神田區雉子町開々社支店〇同神田區佐柄木町東海堂〇同本郷區元富士町盛春堂〇同京橋區木挽町二丁目萬字堂〇同本郷四丁目文壽堂〇橫濱佐吉町角田屋貞〇京都四條通小橋へ入澤集光堂〇同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード〇大坂備後町四丁目岡島支店〇仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部〇宮城縣仙臺大町木村文助〇尾張國名古屋本町石版舍

●賣捌新加●出雲國松江新町盛進堂〇廣島縣大手町一丁目早速社〇長崎酒屋町虎與號〇江州彥根西內大工町新々堂〇相州小田原緣町石壽堂〇上州高崎田町煥平堂〇勢州松坂家里初枝

發行所 東京京橋區日吉町八番地 本局 **女學雜誌社**

持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

遞信局認可

田中智學先生演說　保坂麗山君編錄
●佛教夫婦論　附錄共　全一冊　定價廿五錢　郵稅半額五錢
右は田中先生の演說を筆記せし佛教社會三國未曾有の新說に
して一たび之を讀めば佛教の極意を得て彼耶蘇教の妄を看破
し佛徒向來の方向を指的せると最も精妙と云ふべし且此の說
に對し贊成攻撃の寄評は附錄により猶各宗の衆僧にし此說の可
否を問ひ進で舊妄を一變せんとす
東京日本橋區濱町二丁目十一番地　同盟舍

驛遞局認可

●賣捌新加●出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早
速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州
小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所　東京京橋區日吉町八番地
本局　女學雜誌社
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐

驛遞局認可

米國ケレー氏著○巖本善治君譯

女之未來

定價 三十錢 （新版）

近頃婦人論盛んなるに付ては女は未來何如やうに成行べきや甚だ掛念すべきことなり由て此書は廣く各國の事情を探り未開時代の女の有樣より漸く文明諸國の現狀に移りて遂に今後女の位置何如に進步すべきやを判斷せしものなり

東京神田雉子町 **輿論社** （大取次） 女學雜誌社

石井南橋先生 土井光華先生 三木愛花先生
各家題詩 笑世居士序 風月散人輯錄

東洋百華美人傳

百美人肖像入總クロース極美
西洋綴二百六十四ページ全一冊定價五十錢郵税半額十錢

始に美人才女勇婦の古今に名高き者の奇行異聞を集め次に高尾薄雲勝山奥州等の名妓數十人の實傳逸事を集め終りに東西兩京及大坂の藝妓遊女等今日に名高き者の傳記評判を集め更に毒婦の名高き者と淨瑠璃に殘りたるお七お駒お半か如き者の實傳數十人を掲げ一々考證を正し其間に詩歌文章の優美なると古圖寫眞に依て精密に畫きたる百美人の肖像を加へ一び卷を開けば忽春風起り忽秋雨悲み愛す可く憐むべく怒る可く悲む可く又以て婦女の龜鑑と爲り訓戒と爲り唯風流才子の濟賞のみならず實に淑女諸君必讀の書なり

二月 東京三十間堀一丁目 **九春堂謹白**

田中智學先生演説 保坂麗山君編錄

●佛教夫婦論

附錄共 全一冊
定價廿五錢 郵税半額五錢

右は田中先生の演説を筆記せし佛敎社會三國未曾有の新説にして一たび之を讀めば佛敎の極意を得て彼耶蘇敎の有妄を看破し佛徒向來の方向を指的せると最も精妙と云ふべし且此の說に對し賛成攻撃の寄評は附錄により猶各宗の衆僧に此説の可否を問ひ進で舊妄を一變せんとす

東京日本橋區濱町二丁目十一番地 **同盟舍**

發兌

二月。五日 十二日 十九日 廿六日
三月。五日 十二日 十九日 廿六日
四月。二日 九日 十六日 廿三日 三十日
五月。七日 十四日 廿一日 廿八日

定價

一册。五錢 郵税。一錢 （但府内無郵税）
十册。四十八錢郵税。十錢 （同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を揭する塲に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行 一回 （廿七字詰） 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町開々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新段町頁明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○東京本鄉四丁目文壽堂○横濱仲吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍
●賣捌新加●出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所 東京京橋區日吉町八番地
本局 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen.* By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8, Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō.

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY